

キーパーと経営者のニーズ に応える

「GMAP」

㈱クリエート

本誌増刊号「ザ・グリーンキーパー2010年版」で特集したとおり、コース管理事務所のO.A化は、その9割以上にパソコンが導入されているものの、コース管理用ソフトの導入については18%程度と、依然として普及していない状況である。

しかしその一方で、作業計画・実績の管理、施肥計画・実績の管理、在庫管理、気象データ管理、人員計画といった情報を、Excelなどで独自に管理しているという実態も明らかになっている。

今やコース管理部門においても、作業計画・実績情報等をデータと

して管理するO.A化の必要性が高まっていることは間違いない。そのような中で新たに㈱クリエートが開発した「GMAP」には、従来までのコース管理システムとは異なるいくつかのポイントがあるという。

■新たな「しかけ」 ・誰でもできるデータ入力

システムの導入が困難だとされる大きな理由の一つが、多忙なキーパーがパソコンに向かう時間がないということである。折角のシステムも肝心のデータが入力されなければ無用の長物となってしまう。しかし、GMAPはその問題をユニークな方法で解決している。

その「しかけ」とは、一人一人



作業員に、作業実績をタッチパネル画面で入力する。



気象観測装置による気象情報の自動収集がある。これも新しい点として気象データだけではなく、グリーンに土壌センサーを埋設することで、地温、土壌水分量、ECを常に自動計測できるといえる。

面から入力してもらおうというものである。作業員によるデータの入力には、キーボードやマウスの操作が一切必要ない。画面に表示される作業内容や作業場所、作業時間等の情報を、指でタッチして選ぶだけだという。これによって、パソコンに不慣れた作業員であってもすぐに操作に慣れてしまうため、キーパーや事務員だけに負担をかけることなく、作業実績データを自然に集めることができる。

また、もう一つのしかけとして、気象観測装置による気象情報の自動収集がある。これも新しい点として気象データだけではなく、グリーンに土壌センサーを埋設することで、地温、土壌水分量、ECを常に自動計測できるといえる。

GMAPでは、コース管理日報をはじめとする20種類以上の管理レポートを集計・出力することが



専用の高いコース管理作業の報告書は、第三者には理解しづらいものとなりがちだが、GMAPには、月間、年間での主な実施作業と状態の変化を一連の流れで1枚のカレンダーに表現するカレンダー機能が、具体的に日々の管理情報のポイントを日別、月別に一覧表示することによって、管

ため、データ入力の負担が大きく軽減される。

キーパーは、その他の管理上の重要な判断と情報(施肥実績、灌水記録、グリーン観察記録、散水実績、発注納品情報など)のみを入力すればよく、集計作業や報告事務作業もシステムに任せられることで、逆にキーパーが担うべき高度な判断や施策、指示のための新たな時間を生み出すことができる。

■新たな「しかけ」 ・管理作業の見える化

専門性の高いコース管理作業の報告書は、第三者には理解しづらいものとなりがちだが、GMAPには、月間、年間での主な実施作業と状態の変化を一連の流れで1枚のカレンダーに表現するカレンダー機能が、具体的に日々の管理情報のポイントを日別、月別に一覧表示することによって、管理作業の見える化が実現する。例えば、月別に作業員ごとの作業実績をタッチパネル画面で入力する。気象観測装置による気象情報の自動収集がある。これも新しい点として気象データだけではなく、グリーンに土壌センサーを埋設することで、地温、土壌水分量、ECを常に自動計測できるといえる。GMAPでは、コース管理日報をはじめとする20種類以上の管理レポートを集計・出力することができる。専用の高いコース管理作業の報告書は、第三者には理解しづらいものとなりがちだが、GMAPには、月間、年間での主な実施作業と状態の変化を一連の流れで1枚のカレンダーに表現するカレンダー機能が、具体的に日々の管理情報のポイントを日別、月別に一覧表示することによって、管

理作業とコースの状態を全体的に俯瞰できるというもので、支配人や経営者にとってもわかりやすく便利な機能である。

もちろん、肥料や薬剤の使用実績表、成分実績表、勤務実績表、入出庫管理表、その他の管理帳票も自動集計されるため、キーパーがわざわざそのための事務作業を行う必要がなく、キーパーを楽にするという現場効果も大きい。

■新たな「しかけ」 ・管理コストの評価ができる

ゴルフ場の品質管理であるコース管理には、その内訳や費用対効果が見えにくいという課題がある。

GMAPは、この点についても従来のシステムにはない画期的な仕組みがあるという。管理歩掛表というレポートがそれである。

この表には個々の作業ごとに、延べ人工数、作業回数、1回当たりの人件費、単位面積当たりの人件費、合計金額等が自動的に集計・印字される。例えば、「毎日の力ツブ切りが一回当たり何千円の人件費がかかっているのか」「法面ラフ刈り込みや、FWの手散水、ラフの落ち葉清掃が、1万平米

当たり何万円かかっているのか」など、細かい人件費の内訳と作業別のコスト算出が、月別、年合計で集計されるといった仕組みだ。この結果を分析することで、例えば、単価の異なる作業員(社員、パート等)をコストに応じた適正な作業に割り当てたり、これまでの面積やホール数が異なるために単純な比較ができなかったグループコース間での管理コストも、1回当たり、単位面積当たりのコストとして比較し、費用対効果を検証することが可能である。

集客アップのための営業活動に取り組み一方で、コストの適正化という課題を抱えるゴルフ場にとっては、単なる経費の一律カットという方策ではなく、根拠のあるコスト配分を行うためのツールと言えるだろう。

■新たな「しかけ」 ・根拠に基づく予算の策定

年間のコース管理費を費目別に集計する実績表が、ボタン一つで作成できるようになることは当然のことだが、GMAPには、キーパーが根拠のある予算を策定できる仕組みも備えている。

例えば人件費なら、月別に必要と思われる人員を配置し、残業計画等を加味しながら各単価を基に年間人件費を試算する。肥料や薬剤費などの資材費目なら、月別の使用計画を昨年の実績と比較しながらシミュレーション入力することで、在庫変化を計算しながら自動的に仕入れる量と費用が資材別に割り出される、といった具合である。

キーパーにとっては、具体的な作業計画の積み上げという根拠が生まれ、一方の経営者にとっても、各々の根拠が明確になるため、より手厚くすべき所、あえて品質を落とすとしてもコストカットする所、といった戦略的な予算の策定ができる。

こういった新しい切り口を備えたコース管理システムであるが、GMAPは、あくまでも「キーパーのためのツール」であるという。キーパーが担うべき高度な判断や意志決定のための材料と時間を生み出すために、煩雑な事務を引き受け、先ずはその仕事を楽にする。

そのコース独自の経験と技術を持つキーパーの能力が十分に発揮

なおシステムの価格は、ハードウェア(気象観測装置一式、及びPC、プリンタ類)とコース管理ソフトウェアの一式で、定価620万円(導入工事費別、税別)としている。また、気象観測装置を除く、コース管理ソフトウェア(定価370万円、PC、プリンタ類含む。導入費別、税別)のみ問い合わせ(株)クリエート TEL 0422(54)4040